

新型コロナ感染拡大防止のために自粛・休業する歌声喫茶などの飲食店営業者に対して 迅速な営業補償を求める、歌声喫茶4店による共同声明

歌声喫茶は、1950年代後半から60年代にかけて国民的ブームとなり全国的に広がった大衆文化の一つです。ソングリーダーのリードのもと、生伴奏でお客さんと一緒に歌い交わす楽しみを共有し、一体感を作ることで人と人とが結びあっていくのが歌声喫茶です。この楽しみ方は、時代をこえて現在でも多くの人たちに支持され、様々な形で再び全国に広がっています。

私たち『うたごえの店 家路』『うたごえライブハウス・ゴリ』『うたごえ喫茶ともしび』『歌声喫茶バラライカ』は、歌声喫茶の常設店として協力し合いながらも、それぞれ独立経営として営業を続けています。どの店も、歌い合うことを通して人と人とが繋がりがち、生きる活力を育む居場所としてたくさんの人たちから愛され、営業し続けてきました。

しかし現在、このコロナウイルス感染拡大による自粛要請で、4店舗とも4月1日前後から休業という措置を取らざるを得ない状況になっています。どの店も、こんな時こそ歌い交わし心を明るくできる歌声喫茶が大切だという思いで、3月末まで感染防止対策を万全に営業を続けてきました。しかし2月末からお客さんが減り始め、3月は激減、ついには4店舗とも休業せざるをえなくなってしまいました。

歌声喫茶に人生をかけ、それぞれの店で働く仲間たちは今、窮地に立たされています。お客様が少なくても営業を続けたいが、感染リスクを高めてしまうし、さりとて自粛に協力し休業すれば収入の道が途絶えてしまう、という行き場のない選択を迫られる中で、休業という苦渋の決断をしました。休業していても、家賃などの固定費は出ていくばかりで、長期化すれば持ちこたえられなくなるのは目に見えています。

これは歌声喫茶だけではなく、飲食店、クラブ、ライブハウス、劇場などの経営者のみなさんにとっても同じです。さらにそれは、そこで働く従業員やプレイヤーにとっても、働く場が無くなり、収入の道が絶たれることに直結します。

感染拡大防止のための自粛要請ならば、自粛に協力した営業者に対して営業補償をするのは、国や行政の責任ではないでしょうか。営業補償は、感染拡大を止め、かつ営業者を守るためにどうしても必要なことです。歌声喫茶で働く私たちは、歌声喫茶文化を守るためにも、日本政府に対し、自粛要請に応え自粛・休業した歌声喫茶をはじめとする飲食店営業者へ、自粛・休業による減収分の営業補償を迅速におこなうよう強く求めるものです。

2020年4月20日

うたごえの店 家路 (東京都新宿区)
うたごえライブハウス・ゴリ (千葉県船橋市)
うたごえ喫茶ともしび (東京都新宿区)
うたごえの店バラライカ (宮城県仙台市)